

平成28年度岡山県のハンセン病問題対策事業実施状況

全体統括

●岡山県ハンセン病問題対策協議会

第1回
平成28年8月19日開催
<議題>
1 平成28年度事業実施状況
2 その他

第2回
平成29年3月 開催予定

個別課題への対応

1 偏見・差別解消のための啓発事業のきめ細やかな実施

(1)単なるパンフレットの配布等でなく、啓発資材を活用した語り部等による伝承、対話集会の実施等きめ細やかな事業実施を工夫すること

●ハンセン病問題に関する講演会等の開催
語り部講演会 10校で実施予定

実施希望15校
実施は、小学校4校、中学校3校、小中合同1校、
中等教育学校1校、高等学校1校

●地域交流促進事業
県民が実施する地域交流事業への補助
随時 20件を予定

申請件数9件、635人(7月末現在)

●語り部DVDの活用
随時 図書館等での視聴・貸出等

・療養所訪問研修における事前学習
・パネル展期間中の講演会(6月18日)
での上映

(2)ハンセン病に関する正しい情報提供を行うこと

●ホームページでの啓発 「みんなで描くひとつの道」 www.hansen-okayama.jp
通年 公開開始：H14.6.24

アクセス数、18,388件(H28.4.1~7.31)

- 学習用小冊子の配布
随時 学校・市町村等へ配布、長島愛生園歴史館・邑久光明園等での活用

問い合わせのあった、学校・公民館・市町村等へ配付
学習用小冊子 約4,000部（7月末現在）

- 6月22日「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」関連事業
ハンセン病問題に関する普及啓発及びパネル展開催に係る各種広報
県政広報資料配信

パネル展及びハンセン病療養所入所者による講演会の開催
期間：平成28年6月17日（金）～7月1日（金）
場所：県庁1階県民室
内容：パネル12枚や関連書籍等の展示

講演：平成28年6月18日（土）13:30～15:30
講師：国立療養所長島愛生園自治会 会長 中尾 伸治 氏
演題：「長島の今昔～入所から今日まで60年～」
対象：一般県民、県職員、報道関係者 45名

- 啓発パネル等の貸出
随時 希望に応じて貸出

・県立図書館 1階 ティーンズコーナーで展示(6/11～7/13)

○保健福祉部職員研修（保健福祉課）

保健・福祉行政に携わる職員が療養所を訪問して、その歴史と現状を学ぶとともに、入所者との交流を通じて人権意識を高めることにより、今後の行政施策に役立てる。

7月12日	長島愛生園	14名参加
8月5日	邑久光明園	15名参加

参加した職員の感想(主なもの)

- ・無知が差別につながり人を傷つけるという流れは、解消しなければならない課題であり、私たちの仕事を通して、ハンセン病問題についての正しい知識がない方へ、病気のことや誤解のない知識を伝えていくことが必要であると感じた。
- ・今も尚、入所者の方達と社会の間に障壁があるということに心が痛み、福祉行政に携わる者として、何が出来るかを考えさせられた。

○人権啓発研修（人権施策推進課）

県職員が療養所を訪問し、その歴史と現状を学ぶとともに、人権についての正しい理解と認識を深め、人権行政の担い手としての資質の向上に役立てる。

7月19日 長島愛生園 51名参加

参加した職員の感想(主なもの)

- ・当時の職員等からの扱いや生活環境など、具体的にお聞きできたことを参考に、さらに知識を深め、差別の根絶に向け努力したい。
- ・大変な苦勞をされてこられたこと、施策として取り返しのつかないことをしてきたのだと分かった。
- ・ハンセン病の隔離と差別、偏見の実態を理解することができて良かった。

○人権啓発パートナーシップ推進事業費補助金（人権施策推進課）

県民協働による人権尊重社会の実現を目指して、NPO法人等が行う人権意識の高揚を図るための啓発事業に対し、その経費の一部を補助する。

補助団体名：公益財団法人邑久光明園友愛会

補助事業名：人権啓発展示会

交付決定額：182,000円

○パンフレット等の設置、配布（人権施策推進課）

随時 公民館・図書館等の公共施設に設置した人権情報コーナー(192か所)での情報提供

(3) 道徳副読本問題が提起した偏見・差別の無意識な助長に配慮し、学校教育の中の人権教育において取り上げること

○交流研修会の実施等（教育庁）

国立療養所の園長による講義、居室訪問、入所者の方による講話等を通して、ハンセン病問題についての正しい理解を図る研修を実施する。

・人権教育担当者研修講座

邑久光明園において、10/4、10/11に各定員20人で実施予定

○各種研修会における、「第2次岡山県人権教育推進プラン」等の配付・説明

(教育庁)

市町村教育長・人権教育担当者、各学校の校長・人権教育担当者、初任者等を対象にした研修会で、資料を配付し、説明を行った。

<配付資料・説明の内容>

- ・「第2次岡山県人権教育推進プラン」について
- ・「ハンセン病に関する県民意識調査」結果概要について
- ・「岡山県ハンセン病問題対策協議会提言」について
- ・ハンセン病問題学習の充実に向けて(県の事業、啓発HP、小冊子「ハンセン病問題のこと正しく知っていますか？」等の紹介、配付)
- ・普及啓発DVD「未来への絆～ハンセン病問題から学ぶ～」の利用促進について

○人権教育指導資料の活用の促進等（教育庁）

授業等で活用できる指導資料（「人権教育実践事例集・環境づくり編」「人権学習ワークシート集（上）」「ワークショップ（下）」等）や視聴覚教材等について各種研修会で紹介し、活用を促した。

<平成28年度整備作品>

- ・作品名:「こんにちは金泰九さん ハンセン病から学んだこと」
- ・内容等:第33回全国人権作文コンテストで法務大臣賞に輝いた作文を大ホールで朗読する、後藤泉稀さん(広島県中学2年生)の姿を捉えて、後藤さんと元ハンセン病患者・金泰九さんとの交流を紹介する。(DVD25分)

(注) 「人権教育実践事例集・環境づくり編」「人権学習ワークシート集（上）」「こんにちは金泰九さん ハンセン病から学んだこと」は、人権教育課HPでも紹介している。

(4) 高齢者等への理解を深めるために社会教育活動として生涯学習(出前講座)にも取り組むなど人権意識の涵養をさらに推進すること

- DVD(改訂版)の販売
通年 制作委託会社に販売委託
「ハンセン病を正しく理解するために」3,000円
ハンセン病全般がわかる啓発DVD29分
語り部証言集12名:157分
「今、わたしたちができること」1,000円
小・中・高校生向けハンセン病啓発DVD14分

販売状況(7月末現在)

- ・ハンセン病を正しく理解するために(4枚)
- ・今、わたしたちができること(3枚)
- 計7枚

※愛生園歴史館、国立ハンセン病資料館での販売分は未計上

○人権教育・啓発指導者講座Ⅰの実施(人権施策推進課・人権教育課)

人権問題の早期解決に向けて人権問題相互の関連を図り、自らの課題として日常生活の中に生かせる人権感覚を身につけるための教育・啓発活動を推進できる指導者を養成するため、全4回の研修のうちの一つとして、邑久光明園において現地研修及び交流学习を行う。

実施日 : 平成28年10月18日(火)

受講者 : 25名(予定)

研修内容 : 講義 邑久光明園 園長 青木 美憲 先生

入所者の方の居室訪問、資料展示室見学、啓発DVD視聴

(5) 若い世代に対する啓発は、ハンセン病の正しい知識についてストレートに伝えていくこと

各啓発活動の中で配慮

(6) 主要公立図書館にハンセン病関連文献コーナーを設置すること

○県立図書館への設置(教育庁生涯学習課)

通年 ハンセン病関連文献コーナーを設置

県内市町村立図書館にも、ハンセン病関連の蔵書あり

○啓発パネル・関連図書の展示(教育庁生涯学習課)

6月11日～7月13日 県立図書館1階 ティーンズコーナーにて
「学ぼうハンセン病問題」展示

展示を見られた方の感想(主なもの)

- ・療養所の入所者は隔離で抑圧されたイメージが強いけれど、本を出すなどさまざまな表現をしていることに心を動かされた。
- ・国の施策が誤っていたにしても、社会の側がもっとできることはなかったのかと思う。療養所へ一度行ってみたい。

2 福祉増進施策の実施

(1)入所者を訪問し、県に対する要望などの意向調査を行うこと

- 議会と保健福祉部による合同訪問

6月30日、6月22日の「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」に合わせて、環境文化保健福祉委員長及び保健福祉部次長が長島愛生園及び邑久光明園を訪問

園長訪問、納骨堂への献花の後、自治会役員及び岡山県人会員と懇談。療養所の看護・介護の状況などを伺ったほか、高齢化や里帰り、花火などの話をした。

- 入所者激励費の贈呈（ハンセン病療養所入所者に対するもののみ）

例年、12月に県幹部が訪問し、贈呈
対象：長島愛生園及び邑久光明園の入所者全員

(2)社会復帰支援員を設置し、社会復帰希望者からの相談に対応するとともに、当面、住宅、医療等の確保が求められている状況を受けて、継続的に入所者及び親族や関係市町村等との連絡調整等の支援を行うこと

- 社会復帰支援員による支援活動

平成23年度末をもって、活動終了

- 社会復帰推進事業

療養所全体としての社会復帰を推進するため、療養所を訪問して行う、交流活動への補助

随時 約9件を予定

申請件数1件、73人(7月末現在)

(3)住宅の確保について、関係市町村とも十分連携しながら公営住宅の優先入居や民間住宅の入居斡旋等の支援を行うこと

- 県営住宅の優先入居（住宅課）
随時 土木部住宅課において対応

実績なし

- 住宅費の一部補助
随時 生活保護基準により支給（例）岡山市37,000円／月
「岡山県ハンセン病療養所等退所者助成金支給要領」

(4)医療の確保について、退所者に対する在宅医療の確保や療養所の協力医師、協力医療機関の確保、医療関係者の研修を目的として、療養所、入所者自治会と関係自治体、医療関係団体等との協議の場を設ける等の支援を行うこと

- 個別案件ごとに対応
随時 関係自治体、医師会との協議

社会復帰者については、健康推進課で随時対応要望等、特になし

社会復帰希望者の要望を踏まえ、関係自治体や医療機関等と連絡調整

- 医療費、介護保険利用料の補助
随時 自己負担上限（市民税非課税） ・医療費 35,400円／月
「岡山県ハンセン病療養所等退所者助成金支給要領」

(5) 本人の希望に応じ、里帰り希望者には個別対応を行うこと

●岡山県出身者への訪問

- 6月30日 長島愛生園
- 7月28日 神山復生病院
- 7月29日 多磨全生園

訪問時に、見舞金と里帰り助成金を贈呈し、近況や県への要望、里帰りの予定など伺った。県人会の方の高齢化に伴い、年々、面談が難しくなっている。

入所者訪問時の状況

- ・長島愛生園 11名 { 懇談に来られた方達は、お元気そうな様子であった。
里帰りをしたいという要望を聞いた。
高齢化となり、寂しさを感じると話されていた。
- ・多磨全生園 2名 後遺症や持病などはあるが、お元気な様子であった。
お二人とも再来年あたりに、里帰りしたいと話されていた。
- ・神山復生病院 1名 とても、お元気そうな様子。過去の海外旅行の話や、地元の夏祭りなどに招待されて楽しく過ごしていると聞いた。

●意向を伺い、個別案件ごとに対応

里帰り、墓参りへの支援等について個別案件ごとに対応

3 両園保有史料の保全策に関する国への要望の実施

●史料の保全に関する要望

平成28年度重点要望

内容：将来構想の実現に向け、全力で取り組むこと。
ハンセン病療養所が保有する歴史的建造物や過去の貴重な文献等の資料を保全し、普及啓発に活用すること。

4 今後体制を整えた上で、さらに行う取り組み

(1) ハンセン病療養所入所者に対する聞き取り調査の実施

自治会及び園当局の協力を得て、聞き取り調査を実施し、了解が得られる方の聞き取り調査結果については、啓発資料として活用すること

●小冊子への体験談の掲載

通年 入所者の体験談を掲載した小冊子を、語り部講演会、学校等での人権学習に活用

掲載して活用中

H28配付部数 約 4,000部(7月末現在)

配付先(主なもの)

学校、公民館、市教育委員会など

(2) 関連資料・史料の収集・蓄積

広く県民に対して関連資料の提供を呼びかけるとともに、歴史研究者の協力を得て、岡山県及び市町村保存史料等の調査・研究を進め、偏見・差別解消に向けた取組みの一環として、これらの調査・研究を通じて明らかにされる事実を題材として、県民に対する啓発を行うこと

●資料集刊行、収集した史料の保存・公開

通年 平成20年度までに刊行した資料集制作の際等に収集した史料を、平成21年度末に県立記録資料館へ引き継ぎ済。

県立記録資料館において、史料の公開(H27年1月6日～)。
なお、史料開示の相談があった場合は、個別案件ごとに対応している。

平成14年3月20日「岡山県のハンセン病対策を振り返り正しい理解を進める委員会」
から提出された意見書における提言

(注) ●健康推進課の実施事業